

妊娠初期の出生前検査

(目安として妊娠14週まで)

ファーストスクリーン

FirstScreen[®]

検査の位置づけ	スクリーニング検査
わかること	ダウン症候群と18トリソミーの胎児を妊娠している確率
検査可能時期	目安として妊娠11週～14週
必要な検体	妊婦さんの血液

FirstScreenを受ける前には、
必ず医師にご相談の上、
遺伝カウンセリングを受けてください。

FirstScreenの結果によって検討する検査

報告された結果を確認した後に、胎児が対象疾患であるかどうかについて、より正確な情報を得るための検査があります。染色体分析と呼ばれる以下の検査は実施可能な施設が限られますので、事前に担当医や専門医にご相談ください。

絨毛染色体分析

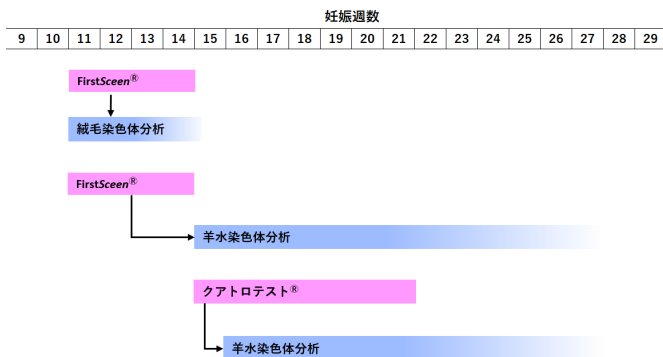
妊娠10週から12週頃に行われる確定診断です。胎盤から絨毛を採取する方法（CVS: Chorionic Villi Sampling）によって得られた、胎児細胞を用いる染色体分析です。

羊水染色体分析

妊娠15～16週以降に行われる確定診断です。羊水穿刺により羊水を採取して得られた、胎児細胞を用いる染色体分析です。

検査を受ける時期について

FirstScreenは目安として妊娠11週から14週に行うことが可能です。従来の妊娠15週から21週に行うスクリーニング検査（クアトロテストなど）に比べて、より早い時期にご自身の確率を知ることが出来ます。



詳細は中面をご覧ください

検査の目的

FirstScreen（ファーストスクリーン）は、胎児がダウン症候群もしくは18トリソミーに罹患している確率を算出するスクリーニング検査です。確定診断である絨毛検査や羊水検査による染色体分析の必要性がどの程度かを判断する材料の一つとなります。

FirstScreenは妊婦さん一人ひとりの確率を算出します。

さらに、基準となる確率より高い場合は Screen Positive（スクリーニング陽性）、低い場合は Screen Negative（スクリーニング陰性）と報告されます。

※双胎妊娠の場合、あるいはインスリンまたは経口治療薬を必要とする糖尿病の場合は結果報告に制限があります。詳しくは主治医の先生までご確認ください。

ダウン症候群とは？

主に21番目の染色体が3本あることにより生じる疾患です。知的発達や運動能力の発達に遅れが見られます。病気にかかりやすく、心臓や内臓の病気を合併する可能性が高くなることが知られています。これらの合併症は治療が可能です。出生後、合併症を早期に見つけ、適切な治療を行うことが重要です。家族の積極的な関わりや専門家によるサポートのもとで早期からの療育や、特別に配慮された教育により、成人して社会生活を営むことも可能になりつつあります。

18トリソミーとは？

18番目の染色体が3本あることにより生じる疾患です。多くの場合、主に心臓の形に変化が見られ、胎児がお腹にいる時期から目立った発達の遅れがあります。知的発達の障害は重度とされます。最近では、積極的な治療などで5～10歳ごろまでゆっくり発育・発達される方もいます。

検査の方法は？

妊婦さんから血液を採取し、血液中のPAPP-AとhCGという成分を測定します。これらは妊娠中に胎児または胎盤で作られる成分です。

これら2つの成分の値は、妊娠が進むにつれて増減しますが、胎児が対象疾患である場合はこの増減に関わる要因となります。FirstScreenは2つの成分の値と超音波検査によるNT（Nuchal Translucency:胎児後頸部浮腫）の測定の結果をはじめとする右図のような因子を用いて、胎児がそれぞれの疾患であるかどうかについて、妊婦さん一人ひとりの確率を算出します。

NTとは？

NTとは胎児の首の後ろに見える“むくみ”のことを言い、軽度なものも含めると多くの胎児に存在します。ただし、むくみが大きいと胎児がダウン症候群や18トリソミーなどである可能性が高くなることが知られています。

検査の所要日数は？

約10日間です。

公的医療保険（健康保険）は適用できますか？

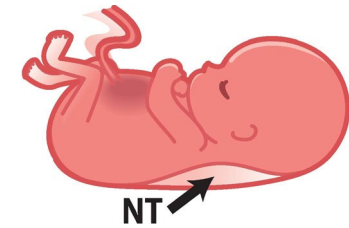
自費診療になり、公的医療保険（健康保険）は適用されません。

検査の費用は？

主治医にご相談ください。

妊婦さんの情報	血液の成分値	超音波測定値
年齢	PAPP-A	NT
体重	hCG	
妊娠週数		
家族歴		
インスリン依存性糖尿病の有無		

妊婦さんの年齢が高くなるほど、ダウン症候群や18トリソミーの赤ちゃんが生まれる頻度が高くなります。



検査の詳細は弊社HPをご覧ください

下記のQRコードからアクセスできます



<http://www.labcorp.co.jp/general/firstscreen.html>

検査の前後には、必ず医師に相談し、
遺伝カウンセリングを受けてください。

医療機関名